

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400024
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ三瓶
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立7番耕地84番地1
自己評価作成日	平成27年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方々の今出来る事・出来そうな事を維持出来るように支援しています。ご家族や地域の方との繋がりも大切に、新規のボランティアの受け入れにも力を入れています。 地域行事への参加も継続出来ており、地元の方々にも暖かく見守っていただいています。 入居者一人ひとりの状態に合わせた支援が出来るよう、主治医・連携看護師・ご家族・職員で協力体制が取れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、利用者と食事を手作りするを大切にしており、食材は地域のスーパーから配達してもらったり、利用者と一緒に買い出しに出かけ、おいしい食事作りに取り組んでいる。食材が届けば、1階ユニットの利用者が2階ユニットまで届けている。調査訪問日は、昼食のいなり寿司やそうめんを利用者も一緒に作っていた。職員は、食事介助しながら献立の説明をしたり、「キュウリの酢物にツモモ入れたけど美味しい？」等と利用者にたずねたりしていた。又、利用者は、「中庭で採れた大葉は美味しい」「手作りのいなり寿司はいいね」「今日は三瓶のお祭りに欠かせご飯やね」等と会話が弾んでいた。午後からは、夕食の餃子を包む利用者の様子も見られた。先日は、中庭で七輪の火を利用者が起こして、とうもろこしや茄子を焼いて食べ楽しめた。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ三瓶

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 林 香代

評価完了日 27 年 7 月 1 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 開設時に職員にアンケートを実施し、意見をまとめて理念を 掲げています。現在も日々の業務において理念に沿った支 援が出来るよう入居者の方々との信頼関係を作り安心して生 活していただけるよう努めています。また、地域行事への参 加も継続し、地域の方との繋がりも大切にしています。	
			(外部評価) 日々の申し送り、月1回のスタッフ会で理念について確認し ている。今年度は、接遇を「重点課題」として、委員を選出 し、全体で学習会を行った。又、職員は、身だしなみや利用 者への言葉遣い等、気になることをその都度話し合ってい る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) ボランティアの受け入れは積極的に行っています。紙芝居 や楽器の演奏等、開設当初より長く継続出来ており、顔なじ みの関係も出来ています。また、お化粧教室等新規の受け 入れもありました。中学・高校の職場体験実習や小学校への ベルマーク等の贈呈も継続出来ています。	
			(外部評価) 事業所の所在する地域は、ボランティア活動が盛んな地域 でもあり、大正琴・日舞・化粧教室等、いろいろなメンバーの 訪問を受け入れ、継続しておつきあいをしている。地域の春 祭りに、お神楽が復活して、全員で公民館まで見に行かれ た。その際には、利用者は友人や幼なじみとも会えて会話が 弾んだようだ。又、小学校・保育園からは、花鉢をいただき、 お返しに利用者と雑巾を手縫いしてお返しをして喜ばれて いる。今後は、保育園行事に利用者も参加できないか園と 相談したいと考えていた。管理者は事業所で夕涼み会を開 催する等、「今後、地域の方が気軽に訪ねてこられる事業所 を目指したい」と話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) いつでも見学が出来るようにしています。職場体験やボラン ティア等でホームに訪問された方々にも認知症について理解 していただけるよう説明を行っています。また、認知症につい てやグループホームについて運営推進会議での議題に取り 入れて説明をしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に運営推進会議を実施しています。防災に関する 取組みについて質問があった時には取組みの内容を説明 するだけでなく、実際の避難訓練に立ち会っていただき ました。	
			(外部評価) 会議には、区長・民生委員・ご家族・市職員・法人役員が参 加しており、認知症の勉強会を併せて行うこともある。今後 は、運営推進会議の内容を見直すため議題についてアン ケートを取ったり、地元の介護施設職員や法人の他施設職 員の参加も促したいと話していた。	いろいろな立場の方に会議参加を働きかけ、会議を通じて 事業所の取組みや活動を知ってもらおう等、災害時の協力 体制作りをすすめていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事故報告や感染症など、発生時には速やかに報告を行い 今後の対策について説明しています。書類作成までにまず 電話連絡を入れるようにしています。運営推進会議にも参加 していただき、事故報告や事故に対する対策について議題 にあげて情報共有しています。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、町職員が参加して、町内の認知症高齢者 の状況を説明してくれている。以前は、町内事業所の管理者と町 職員で介護事業所紹介・説明会を行い地域の意見や要望を聞く 機会があったが、現在、担当者が替わったことにより休止となっ ている。管理者は、この紹介・説明会は、事業所同士の連携が図れ、 地域住民の声を直接聞ける貴重な機会と捉えており、再開催に向 けてアピールしていきたいと話していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間以外はしないようにしています。センサー や鈴を設置し拘束はせず安心して暮らせるような工夫をして います。事故後の対策を検討をする際にも抑制にならない 方法を各階のスタッフで検討し、スタッフ会や日々の業務の 中でも意見交換しながら取り組んでいます。	
			(外部評価) 入眠剤が効かない利用者について、夜間の様子をビデオに撮り主 治医とご本人の支援について検討し、入眠剤を使用せず支援を工 夫し、夜間眠れるようになったような事例がある。立位が不安定な 利用者には、居室にセンサーマットを使用し、ベッド柵には鈴を付 け職員に分かるようにして対応している。車椅子を利用する方は、 横になって休む時間を取れるようにして、座りっぱなしにならないよ うに支援している。言葉の拘束について職員間で話し合いながら、 拘束しないケアの実践に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞等での事例報告が掲載されていた時にはスタッフ会や日々の申し送りでも共有しています。小さいアザでも事故報告書に記入し、対策を検討したり入浴時の全身観察などで変化を見過ごさないよう注意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在までにホームで利用されている方はいません。独居の方の入居や身内の方との関係性が変化する場合等に案内していきたいと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて説明しています。内容に変更が生じた場合には文書を配布し理解していただけるよう説明をしています。入居後も安心して生活していただけるよう面会時には声をかけるようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月一人ひとりの状態や活動の様子は写真と手紙を添えてご家族にお伝えしています。また、面会時の面会用紙や玄関入口に意見箱を設け家族の方の意見を記入出来るようにしています。意見が出た場合には職員間で話し合い改善するように努めています。 (外部評価) ご家族には、2ヶ月ごとに事業所より「マンボウだより」を発行して事業所全体の活動を報告している。又、毎月、利用者個別に生活の様子や健康状態を報告している。年1回、家族会を開催し、食事やゲーム等して楽しみながら交流する機会を作っている。管理者は、「見てもらっている」というご家族の心情に配慮して、ご家族の意見を汲み取れるように、アンケート実施を検討中である。ご家族から「職員の異動を少なくしてほしい」と意見があり、ご家族の声を法人に伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のスタッフ会やカンファレンス等で提案があればその都度報告されています。日々の業務の中でも意見交換しながら取り組んでいます。	
			(外部評価)	
			毎月のスタッフ会時、「1ヶ月頑張ったこと」を職員個々に発表している。職員が「口腔体操」の取り組みについて発表したことがきっかけで、他職員が手順を貼り出し全職員で統一した支援ができるようになった。外部研修は、職員順番に受講できるよう取り組んでいる。又、今年度は、職員の希望で法人の看護師が講師となり、医療面についての学習会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			今年度改めて登用制度の見直しがあり、各自が向上心を持って取り組める環境となっています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修案内はその都度配布しています。今年度は年間の研修計画を作成し、全員が研修に参加出来るようになっていきます。研修参加後はスタッフ会で報告を行い職員全員のレベルアップに努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			付帯施設の施設長が集まる高齢者支援課会議や付帯施設の職員で形成されている安全対策委員会、接遇委員会、介護手順書作成等があり情報共有や意見交換の場となっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居までに見学に来ていただいたり、訪問をし事前に顔合わせ出来るよう工夫し入居時の不安を少しでも解消出来るようにしています。今までの生活の様子を伺い、ホームでの生活にも取り入れるように努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にご家族が抱えている悩みや不安なことについて伺っています。その後も面会時やカンファレンスの際に新たな要望等がないかを確認し、ご家族にしか出来ない事がある事を説明して協力体制をとりながら適宜状態報告をするよう努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望や困っている事に耳を傾け必要に応じて居宅介護支援事業所や医療連携室等にも相談しながらその方に必要な支援について検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の今出来る事、出来そうな事に視点を置き、継続出来るよう支援しています。時には助けていただいたり教えていただくような場面もあり暮らしを共にする者同士の関係性が継続出来るよう努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族にしか出来ない事、ご家族だからこそ出来る事がある事をお伝えし、理解して頂きながら共に支える関係性を大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所との関係が途切れてしまわないよう支援しています。地域のお店を利用することで買い物に行くなど知人に会える機会にもなっており地域行事への参加やボランティアの受け入れも継続する事で知人との再会の場となっています。 (外部評価) 利用者・職員とも地元の方が多く、スーパーやコンビニ、お祭り、バザー等に出かけると知り合いに会うことが多い。ご家族来訪時には、居間や居室でゆっくり過ごせるよう職員は、近況を報告したり、お茶を用意している。お正月には、ご家族に年賀状を出せるよう支援している。ご家族と電話で話したいと希望があれば、職員が取り次ぎ支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	(自己評価) 入居者さん同士の関係性を大切にし、職員が見守りながら 時には仲介に入り、トラブルにならないよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努めて いる	(自己評価) 契約が終了しても必要に応じて連絡をしたり、相談や支援を したりしています。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	(自己評価) 今までの生活の様子をご家族にお伺いしたり、ご本人の意 向や希望を尊重した取り組みが出来るよう努めています。困 難な場合には入居者の立場に立って検討し、押し付けにな らないよう気をつけています。 (外部評価) 入居前には、管理者がご自宅に訪問して、ご家族やかかり つけ医・相談員から情報を集め、事業所独自の「入居者情 報」の書式にまとめている。追加事項はその都度職員が記 入し、年1回見直して「現在の利用者の情報」となるよう工夫 している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	(自己評価) 過去のサービス利用については介護支援専門員より情報提供 をしていただいたり、生活歴についてはご家族や本人に伺 いながらホームに馴染みの物を持ち込めるような環境を整え ています。また、面会に来られた知人や親戚の方からの情報 提供があった場合には随時新たな情報として職員間でも共 有するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタル測定を行っています。日々の状態については 主治医に報告をし個人別の介護記録に記入しています。毎 日の申し送りや日誌を活用し状態の把握に努めています。 状態に応じてスタッフ会やカンファレンスで話し合い支援方 法を統一出来るように取り組んでいます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			状態に合わせ、ご家族・主治医・連携看護師・施設職員で話し合いの場を設け今後の支援方法について検討する機会を作るようにしています。介護計画書作成に当たっては本人やご家族の意向を確認し思いを実現出来るように作成しています。	
			(外部評価)	
			介護計画は、毎月評価して、6ヶ月ごとに見直している。日々の「経過記録」には、介護計画の目標やケアの注意点を記して、支援内容についても記録する仕組みを作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケアプランを個別の介護記録に記載することで日々の取り組みに活かせるように取り組んでいます。日々の気づき等日誌にも記載して職員間で情報共有しながら取り組んでいます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院受診や散髪、買い物や外出等、その時の状況に応じて柔軟に対応しています。出来る範囲でご家族にも協力をお願いしたり、相談したりしながら支援しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			前年度同様、ボランティアの受け入れを継続出来ています。今年はお化粧品教室等新規のボランティアの受け入れもありました。また、民生委員の方には運営推進会議以外でもホームに立ち寄っていただいています。友人や地域の様子を交えて会話や交流してもらっています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族の希望を大切にしています。入居前にかかりつけ医については相談し、決めるようにしています。また、その時の状態に応じて希望する病院へ受診出来るように主治医や看護師と相談しながら支援しています。	
			(外部評価) 毎日協力医が往診に来ており、調査訪問日には、往診後、利用者とお茶を飲みながら歓談している様子が見られた。夜間の発熱等にも対応してくれている。必要な場合には、歯科医の往診を受けることもできる。利用者の疾患によっては、ご家族が付き添い以前からの病院を受診するケースもある。ご家族が付き添う場合は、職員が利用者の近況をまとめて、ご家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師とかかりつけ医の看護師の訪問がそれぞれ週1回あります。適宜状態を報告・相談し、体調管理につとめています。また、適切な受診が受けられるよう支援しています。	
			(外部評価) 入院時には入居者情報やお薬情報を持参し情報提供しています。入院後も定期的に面会し、入居者が少しでも安心出来るよう配慮しています。病院関係者とは治療後の早期退院に向け適宜相談をしており、退院時には退院後の支援がスムーズに行えるよう情報提供していただいています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 状態に変化があった場合には、ご家族・主治医・看護師・施設職員で話し合いの場を設け今後の支援方法や重度化した場合のあり方について話し合いを持つようにしています。ホームで出来る事を理解していただき、ご本人やご家族の要望に沿えるように取り組んでいます。	
			(外部評価) 入居時、看取り支援の希望を利用者やご家族に聞き取っている。「どうしたいかわからないが、延命は希望しない」というような希望が多いようだ。看取りを希望する利用者があり、ご家族と密に連絡を取り合って事業所で、はじめて支援している事例がある。重度化や看取りに関しては、法人の看護師が講師となり、その時々利用者の状況を踏まえた学習会を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態に変化があった場合には、ご家族・主治医・看護師・施設職員で話し合いの場を設け今後の支援方法や重度化した場合のあり方について話し合いを持つようにしています。ホームで出来る事を理解していただき、ご本人やご家族の要望に沿えるように取り組んでいます。	
			(外部評価) 入居時、看取り支援の希望を利用者やご家族に聞き取っている。「どうしたいかわからないが、延命は希望しない」というような希望が多いようだ。看取りを希望する利用者があり、ご家族と密に連絡を取り合って事業所で、はじめて支援している事例がある。重度化や看取りに関しては、法人の看護師が講師となり、その時々利用者の状況を踏まえた学習会を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の連絡先やマニュアルを作成しています。今年は「救急処置の手順・誤嚥・誤飲について」看護師さんによる勉強会があり、数名参加しました。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1回、防火訓練を実施しています。訓練の際には消防署の職員に立会って頂き、ホームの現状報告や指導を受けています。今年は各階の入居者全員の避難誘導を実施しました。「原子力災害非難計画」や「南海トラフ地震防災対策計画」等を新たに作成しています。 (外部評価) 11月には、利用者も全員参加して、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。前回の避難訓練では、利用者が驚いた様子が見られたため、11月の訓練時には、「防災訓練です。外に逃げてください」と書いた紙を利用者に見せながら声をかけて誘導した。2階ユニットは、2ヶ所ある階段を使い、車椅子の利用者も職員や消防署員の誘導で避難した。前回より短時間で避難が完了したようだ。伊方原発災害に備えて、避難受け入れ事業所を宇和島市に確保している。備蓄は3日程度、水・粥・衛生用品を勝手口近くに準備している。	管理者は「事業所は隣家から離れているが、近隣の方、地域の消防団に事業所を知ってもらい、避難訓練に参加していただけるような関係を築きたい」と話していた。さらに、伊方原発災害時避難受け入れ事業所との関係づくり等にも取り組んでほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの出来る事、出来そうな事を見極めながら支援していくことを心がけています。自分達の対応で傷つけてしまったり役割を奪ってしまわないよう距離間に十分配慮し気付きは職員間で共有したり注意し合うようにしています。また、1人で過ごす時間も大切にしています。 (外部評価) 編み物が得意な利用者、「マフラーを編んでみませんか」と声をかけたり、読書がお好きな利用者と町内の図書館に利用者と一緒に本を借りに行っている。居室の扉を開放して過ごすことの多い利用者が、扉を閉めて居室で過ごすような時には、様子等そっと見守るようにしている。調査訪問時には、「針に糸が通せない」と困っている職員に、「私が通してあげる」と利用者が協力してくれている様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 作業等にお誘いする場合には自己決定出来るようご本人の意思を確認しながら支援しています。ご本人の思いや希望を大切にしながら会話を通してその思いを汲み取れるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の状況に合わせて臨機応変に対応しています。無理 強いはず、形にとらわれず、その時々体調は希望に合 わせて支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 起床時や外出の際には身だしなみやお洒落が出来るよう に好みの服を一緒に選んだり鏡の前で整容しています。今年 はボランティアの方に訪問していただき、お化粧品をしてい ただきました。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の形態は入居者の方々の嚥下状態に合わせたものに しています。季節の食材を取り入れ、ミキサー食の方にも美 味しく食べていただけるよう盛り付けにも工夫をしています。 (外部評価) 事業所は、利用者と食事を手作りすることを大切にしており、食材 は地域のスーパーから配達してもらったり、利用者と一緒に買い出 しに出かけ、おいしい食事作りに取り組んでいる。食材が届けば、1 階ユニットの利用者が2階ユニットまで届けている。調査訪問日は、 昼食のいなり寿司やそうめんを利用者も一緒に作っていた。職員 は、食事介助しながら献立の説明をしたり、「キュウリの酢物にツイ モ入れたけど美味しい？」等と利用者にとずねたりしていた。又、 利用者は、「中庭で採れた大葉は美味しい」「手作りのいなり寿司 はいいね」「今日は三瓶のお祭りに欠かせんご飯やね」等と会話が 弾んでいた。午後からは、夕食の餃子を包む利用者の様子も見ら れた。先日は、中庭で七輪の火を利用者が起こして、とうもろこしや 茄子を焼いて食べ楽しめた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 三度の食事には必ず汁物をつけています。食事以外にも10 時・15時・19時と水分補給の時間をとっています。また、入 浴の前後にも水分補給し状態に合わせてチェック表を使用 したり、一日の水分量を確保出来るよう支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを行っています。歯科衛生士さんに口腔 マッサージをご指導いただき、現在は毎日行っています。自 分で出来るところまではご自信で行ってもらい、出来てい ない部分については介助し口腔内の清潔保持に努めていま す。また、必要に応じて歯科往診も出来るよう支援していま す。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出きる限りトイレでの排泄が出来るよう支援しています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつの使用も必要最小限となるよう状態に合わせて検討しています。	
			(外部評価) 入居間もない利用者が便秘になった事を機に、下剤を用いず自然排便できるような支援を工夫している。寒天等、食物繊維を多く含む食事を採り入れ、水分補給に力を入れて改善につながっている。日中は、全員布パンツ・紙パンツで過ごして、個々の排泄パターンに応じトイレ誘導等している。生活の中で立位や歩行できるよう支援して、安全にトイレで排泄することを続けられるよう取り組んでいる。今年は、紙おむつ・紙パンツの使用方法を見直して、職員が統一した支援を行い、おむつ代の削減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝ヨーグルトを食べています。自然な排便が出来るよう、日頃より水分補給や適度な運動をしたり雑穀米や寒天、食物繊維が豊富な食材を取り入れた食事を提供する工夫をしています。下剤の服用や浣腸の使用も軽減しました。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の日時・回数等はご本人の希望に沿えるように支援しています。最低でも週に2～3回の入浴は出来ていますが、皮膚の状態や体調により足浴等の部分浴や清拭に変更するなどその時の状態に応じて対応しています。	
			(外部評価) 入浴剤を使用したところ、利用者に好評だったことを機に、月ごとに季節に合わせて入浴剤を替えて楽しめるよう支援している。皮膚の弱い利用者が多く、看護師からのアドバイスで利用者個々に綿のタオルを用意している。浴槽に直接手すりを取り付け、利用者は浴槽に入ることが楽になったようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 車椅子を使用されている方が長時間座ったままにならないよう体調や状況に合わせて適宜休息をとってもらっています。入眠や睡眠時間はそれぞれの生活パターンに合わせ、室温にも配慮し快適に過ごせるよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関する情報はお薬情報で確認しています。薬の変更があった場合には日誌等で申し送り、変更後の状態について観察し適宜主治医や看護師に報告しています。誤薬防止の為、内服前には名前と日付を確認し、ご本人の前で声に出して名前を呼ぶようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で「出来る事・出来そうな事」を見つけ、その力を引き出せるよう支援しています。助けられる事や教えて頂く事も多くその都度感謝の気持ちをお伝えしています。体調や気分のすぐれない日には少し距離を置いて見守り、状態に合わせて対応しています。梅干や干し柿・しめ縄作り・餅つき等季節を感じられる取り組みでは昔話に花が咲いています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い時期には外出レクの計画を立てたり、個別での外出では行きたい場所へ外出出来るよう支援しています。ご家族や民生委員さんの協力もあり、時々ご自宅へ帰られる方もおられます。 (外部評価) 外出先を決める時には、担当職員が事前にトイレや休憩場所の確認を行っている。先日はお弁当を手作りして三間町の道の駅に出かけた。管理者は、利用者の介護度が進んだことで、さらに個別支援を充実させたいと考えており、職員と数名の利用者で、八幡浜の「みなつと」に出かけて、ソフトクリームを食べたり、あわしま堂の直売所でお菓子を食べている。利用者の中には、他利用者へのお土産を買うような方もいるようだ。毎日の出来事を書く習慣がある利用者には、職員と一緒にノートを買いに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金に関しては、ご本人やご家族の希望に沿って対応しています。近所のコンビニにで買い物を希望される方には同行し買い物をする楽しみを継続出来るよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合には、ご本人や友人等へ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。年賀状を出されている方もおられ、今までしていたことが継続出来るよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、季節の飾りや花等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫しています。適宜室温調節をし、居室以外でも休息をとれるようソファやベンチを設置しています。掲示している写真を見ながら会話作りのきっかけにもなっています。	
			(外部評価) 利用者と一緒に新聞紙を丸めた棒を作り、居間で体操を行っている。夏場、涼しい時間帯には、駐車場や中庭の畑で過ごせるよう支援しており、利用者は畑の野菜の生長や収穫を楽しみにしている。居間には、外出時や日々の写真を飾っており、ご家族が「遠方の兄弟に見せたい」と持ち帰ることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者同士、思い思いに過ごせるように工夫しています。食卓席やソファ、屋外であればベンチ等を活用し、その時々状況に合わせて休息をとりながら会話出来るよう支援しています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はご本人が過ごしやすいように使い慣れたもの、好みの物を自由に持ち込めるようになっていきます。ご家族との写真や手紙等もご本人の見やすい位置に飾り、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
			(外部評価) ご自宅からクッション・ダンス・空気清浄機を持ち込んでいる方や、ご自分で釣った魚の魚拓を飾っている方もある。寝返りをよくされる方には、体をぶつけないよう壁との間にマットレスを置いていた。ご家族の写真を飾っているところもあった。利用者がご自分の居室が分かりやすいように、入口に暖簾をかけ、ドアの横には写真を掲示している。1階は、中庭に面し掃き出し窓になっている。又、2階は出窓になっており中庭の畑の様子が見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 状態に合わせて対応しています。説明をする場合にはゆっくりと分かりやすい言葉(方言)を使用し、一緒に生活しながら混乱や失敗を防ぎ、出来る限り自立した生活が出来るよう支援しています。日めくりカレンダーをめくる事や金魚の餌やりが日課になっている方もおられます。	